

広報「もせうし」が北海道広報コンクールで初めての特選に！

妹背牛牧場が特集された広報「もせうし」3月号を持つ、佐々木さん夫妻と、広報担当の地域おこし協力隊の芳形隊員（中央）



2024年3月に発行した広報「もせうし」3月号が、第71回「北海道広報コンクール」広報紙・町村の部で、初めて特選に選ばれ、令和7年「全国広報コンクール」への推薦をいただきました。

北海道広報コンクールは昭和27年から毎年実施しており、道、道市長会、道町村会で構成する広報広聴技術研究会実行委員会が主催しています。

今年は5部門に61団体が133点の作品を出品。広報紙・町村の部には、32点の応募がありました。

広報「もせうし」3月号の特集は、家畜を快適な環境下で飼育する「アニマルウェルフェア」に取り組む「妹背牛牧場」です。牛と家族のように仲良く接する酪農家の佐々木さんご夫妻からお話を聞き、表紙から5ページまでの紙面にまとめました。

審査員からは「ユーモラスな吹き出し、『妹背牛』と『牛』をかけた遊び心など、作り手の情熱が伝わる」「アイキャッチの小見出しが効果的で、ページごとのリズムミカルな場面展開と相まって楽しく読み通すことができる」などと、講評をいただきました。

また、2024年8月に発行した広報「もせうし」8月号の表紙の写真が、一枚写真・市町村の部で入選しました。

認定こども園妹背牛保育所の協力を得て、遊水公園うららのウォータースライダーで水しぶきを上げる園児の姿を活写しました。



広報もせうし
3月号



広報もせうし
8月号

となりの外国人

担当：ズオン・ティ・フォン

妹背牛神社で
初詣をするベトナム人

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

時間が経つのは本当に早く、1年間もあっという間に過ぎちゃいました。このコーナーは今回が最終回となりますが、これからも協力隊の活動などでお世話になると思いますので、よろしくお願いします。

今回のお話は年末にさかのぼります。お正月の準備をする日本人を見てみると、私はなんだか実家のことが懐かしくなりました。

日本に住んでいる外国人にとって、お正月は楽しい時間でもあり、寂しい時間でもあります。うれしいのは実家にいる家族が元気なこと。寂しいのは、また1年間、大切な人との貴重な時間を一緒に過ごすことが出来なかったことです。

でも幸いなことに、日本に住んでいても、いつもそばに同郷の友達があります。大晦日に大掃除をして、忘年会で2024年のことを振り返りました。元旦に、みんなと妹背牛神社へ行き、初詣の雰囲気を楽しみました。

初めて日本の神社に行く友達が、真面目な顔で私に聞きました。

「お祈りする時は、日本語？それともベトナム語？」

私は笑いながら言いました。

「神様は、心の声を聞いていますよ！」

2025年が始まる日、外は寒くても、みんなと一緒に過ごした何気ない時間がとても暖かく感じました。

